



そのサウンドは、機能性を損なわずに時代を超越する。
そのサウンドは、新たな機能性を見出され時代を超越する。
20年後、30年後、世界中の音楽ディガーに発見され、興奮し、語り継がれる日本の音楽。
フロアを揺らす音楽。決して消費される事のない音楽。音楽はタイムマシン。
盤は回り、そのサウンドは未来へと繋がって行く。



Keishi Tanaka 『BREATH』

ソロ活動を積み重ねてきたからこそ出来上がった4thアルバム

Negiccoへの楽曲提供、CM楽曲書き下ろしなど音楽だけにとどまらず、その活動の幅を詩集や雑誌の連載など多方面へもさらなる広がりを見せているKeishi Tanakaの4thアルバム。ソロ活動を積み重ねてきたからこそ出来上がった強い作品であり、さらに新たなフィールドへ進もうとするKeishiの意思表示でもある本作。ジャンルや聴く環境を選ぶことなく、過ぎ行く日々自然と寄り添い、触れた者全てが瞬間的に感じるこのことのできる多幸感に満ち溢れている作品。

5/8発売

【メーカー特典】

『BREATH by Photo & Word』(B5判)

山川哲矢氏による撮り下ろし写真と、Keishi Tanaka本人によるライナーノーツ



Kan Sano 『Ghost Notes』

鍵盤の魔術師Kan Sano、次なるムーブメントを指し示した力作

指先で世界を魅了する鍵盤の魔術師Kan Sanoがキーボードは勿論、ドラム、ベース、ギター、トランペット、ヴォーカル、作詞作曲からミックスまで全てを操る多才ぶりを発揮した意欲作。自身にとって原点回帰となるネオソウルや、世界中の音楽ファンが次のトレンド!>と注目するLo-Fi Hip Hopに、日本人特有のメロディセンスを注入した唯一無二のクリエイション! 今まさにトレンドがアジアへと移行する中、世界から最も注目を集めるキーボーディストがここ日本から重要作をドロップ!

5/22発売

Editor's Choice

Keishi Tanaka's Side



TENDRE
『NOT IN ALMIGHTY』
好評発売中



向井太一
『PURE』
好評発売中



LEARNERS
『ラーナース・ハイ』
好評発売中

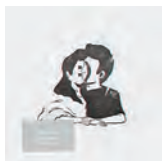


Unchain
『LIBYAN GLASS』
好評発売中



bonobos
『FOLK CITY FOLK .ep』
好評発売中

Kan Sano's Side



mabanua
『Blurred』
好評発売中



Oval
『IN TRANSIT DELUXE EDITION』
好評発売中



中村佳穂
『AINOU』
好評発売中



YOSA & TAAR
『Modern Disco Tours』
好評発売中



origami PRODUCTIONS
『僕たちがやりました Original Soundtrack』
好評発売中



Keishi Tanaka interview

バンド、Riddim Saunterの解散後からソロ・アーティストとして活躍を続けるKeishi Tanaka。力強く伸びやかな歌声と詩情豊かな歌詞で人気を誇るシンガー・ソングライターが、4作目のアルバム『BREATH』をリリースする。2枚組のベスト・アルバム『CLIPS』に続く待望と言っている新作には、新たなフィールドへと進もうとするKeishi Tanakaの意志が高らかに表明された楽曲が詰まっている。詩集の発表や文筆業など、音楽に留まらない幅広い活躍をする表現者に〈未来ノモノ〉について訊いた。

—— 未来や世界のリスナー／ユーザーに向けた本作の聴きどころは？

日本人がやっていると思われる音楽。それはブルーアイドソウルのような考え方なのかもしれない。インプットとアウトプットのバランス。心地よい音楽でありながら、心に残るものをどくくらい仕掛けていけるか。ただ流れてしまう音楽ではなく、奥行きのある音楽。僕の2019年のモードと共に、未来のリスナーには言葉や意味を、世界のリスナーには日本を感じてもらえれば嬉しい。

—— 今後の日本の音楽シーンや世界のシーンの展望について教えてください。

今は、今後の音楽シーンをあまり意識してないです。最近は特に変わるスピードも早いし、考えても仕方ないかなという感じ。例えばリリースの方法でも、〈今ならどうするか〉をその度に決断するしかないと思っています。人も機械もサービスも相性。自分が楽しんでやれることはやれば良い。自分の感覚を信じてやるしかない。音楽シーンがどうなろうと、音楽はなくなるらない。

—— 日本人の感性や音楽で優れていると思われる部分は？

歌詞。日本語にしかない美しい言葉、表現がたくさんある。

—— そういったなかで、Keishi Tanakaさんはどう存在していきたいですか？

作っているときは自分のため、完成したものは誰かのため。僕の音楽はそうありたいと思っています。なので、自分を含めた人の気配みたいなものを無視することなく音楽を発表し続けていけたら。未来を生きる人に、2010年代の和モノとして今作が聴き続けられていたら嬉しいです。そういう音楽をこれからも残していきたいです。

Keishi Tanaka × Kan Sano 新作の
ロング・インタビューは mikiki.tokyo.jp にて!
<http://mikiki.tokyo.jp/articles/-/21344>



Kan Sano interview

ヒット作「k is s」から約2年半、キーボーディスト／プロデューサーのKan Sanoから遂に新作「Ghost Notes」が届けられた。シングル“DT pt.2”“Sit At The Piano”がストリーミング・サービスで200万回再生を突破するなど、追い風が吹くなかでのリリースだ。一方、Charaのツアーでバンドメンバーを務め、絢香らシンガーの楽曲を多数制作するなど、昨年はその名を聞かない日はなかったほど。ドラムからベース、ギター、トランペット、ヴォーカルまで、あらゆる楽器を操る稀代の音楽家に〈未来ノモノ〉というテーマの質問に答えてもらった。

—— 未来や世界のリスナー／ユーザーに向けた本作の聴きどころは？

邦楽にも洋楽にも聴きたい音楽が見つからず、自分の居場所が無いと感じてる人にこそ聴いて欲しい。共感原則に基づいていないパーソナルなポップスを作りたいかった。自分自身がそういう音楽を聴きなかったから。何かと生きづらい世の中だけど音楽を聴いている時くらいは自分の世界に浸りたいし、自由でいたい。

—— 今後の日本の音楽シーンや世界のシーンの展望について教えてください。

日本でもストリーミングが普及してきてアーティスト活動の選択肢と可能性が増えたことは嬉しいことなのですが、その一方で世間一般の価値観や見えない同調圧力、大量消費社会に常日頃違和感を感じてる自分にとって、世間と自分との距離はますます広がっているように感じます。日本と海外の距離も随分と離れてしまった。才能のある人はどんどん海外に出て行くし、このままでは日本の文化は痩せ細り、奥行きのあるものになってしまうと危惧しています。いま日本で活動するアーティストは自分のやりたいことをやりきる強固な信念と行動力が必要だし、そんな彼らをサポートする人やシステムも必要です。

—— 日本人の感性や音楽で優れていると思われる部分は？

余白に意味や価値を見出せるところ。物に魂の気配を感じたり、擬人化して感情移入したりできるところ。

—— そういったなかで、Kan Sanoさんはどう存在していきたいですか？

ミュージシャンとしてはアメリカの音楽に多大な影響を受け留学しましたが、根本の部分では日本で培った感性に基づき創作してます。そしてその感性は世界に胸を張って示せるものだと思います。80歳まで現役で活動することを目標にしているので、これからも地道に頑張っていきます！

Keishi Tanaka's Choice



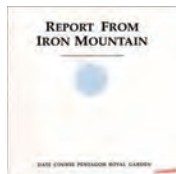
大瀧詠一
「A LONG VACATION」



CUBISMO GRAFICO
「TOUT」



SCAFULL KING
「SCATEGORY」



DOPPEL DATE COURSE PENTAGON ROYAL GARDEN
「REPORT FROM IRON MOUNTAIN」



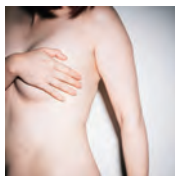
坂本慎太郎
「幻のつきあい方」



BRAHMAN
「超克」



ベトリールズ
「Renaissance」



LOSTAGE
「In Dream」
※ライブ会場 / ONLINE SHOP のみ取扱い



TENDRE
「NOT IN ALMIGHTY」



中村佳穂
「AINOU」

Kan Sano's Choice



兎玉奈央
「IN YOUR BOX」



寺尾紗穂
「たよりないもののために」



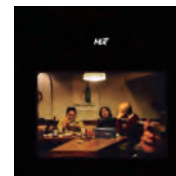
柴田聡子
「がんばれ！メロディー」



長谷川健一
「震える牙、震える水」



Kaco
「たてがみ」



MGF
「Real Estate」
※配信のみ



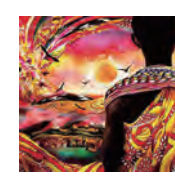
TEAMS+NOAH+REPEAT PATTERN
「KWAIDAN」



BUDAMUNK
「BAKER'S DOZEN」
※12インチアナログ



TOSHIO MATSUURA GROUP
「LOVEPLAYDANCE」



Uyama Hiroto
「freedom of the son.」